

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月18日
函館市立千代田小学校

1 本年度の重点教育目標

自ら学び 自ら行動 ～自らの意志で 学びを行動に～

2 本年度の取組の重点

(1) 安心・安全な学びの場の創出 (2) 一人一人の意欲を高め可能性を開花させる組織的な授業改革
(3) 学びと地域の資源をつなげ業務をすすめるチーム千代田の確立

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
安心・安全な学びの場の創出	○児童の主體的な判断力や実践力を育む発達支持的生徒指導	a	・自己肯定感や自己有用感を高める場を工夫する。	A	A	・中学校進学後の不登校の状況が心配である。
	○自己肯定感や自己有用感を実感できる共感的な人間関係の育成	a	・自他のよさを実感できる場を工夫する。	A	A	
	○コミュニティ・スクールや千代田小応援隊を活用した地域とともにある学校の構築	a	・地域人材を活用して教育活動を充実する。	A	A	・今後、五稜郭中学校区でのCSについても考えていく必要があるのではないか。
一人一人の意欲を高め可能性を開花させる組織的な授業改革	○学ぶ姿勢の定着と確実に身に付けるべき資質能力の共有と根拠に基づく授業改革	b	・児童が主体的に学び、自己の学習を調整できるような授業を工夫する。 ・各種調査結果に基づき課題解決のための取組を工夫する。 ・読書や家庭学習の習慣化を図る取組を工夫する。	A	A	
	○豊かな学びを実現するICTの効果的な活用の推進	b	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた指導を工夫する。 ・ICTの効果的な活用に向けた取組を工夫する。	A	A	
	○主体的・対話的で深い学びの具現化に向けた研修の推進	a	・複式学級も含め、授業改善に向けた研修を充実する。	A	A	
学びと地域の資源をつなげ業務をすすめるチーム千代田の確立	○チーム千代田での育成すべき資質や能力を踏まえた取組	a	・学校の状況や地域のよさを踏まえ、教育活動の改善に努める。	A	A	・少人数の中で学校・保護者・地域が一体となって子供たちを育てている。
	○家庭やPTA、五稜郭中学校区と連携した教育活動	a	・幼保小や小中の連携の強化に努める。	A	A	・幼保小の連携を一層緊密に進めてほしい。
	○「働きやすさ」と「働きがい」を軸とした業務体系への見直し	a	・業務改善に向け、教育・校務のICT化を進める。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。